

Infection Control News

院内感染対策 瓦版

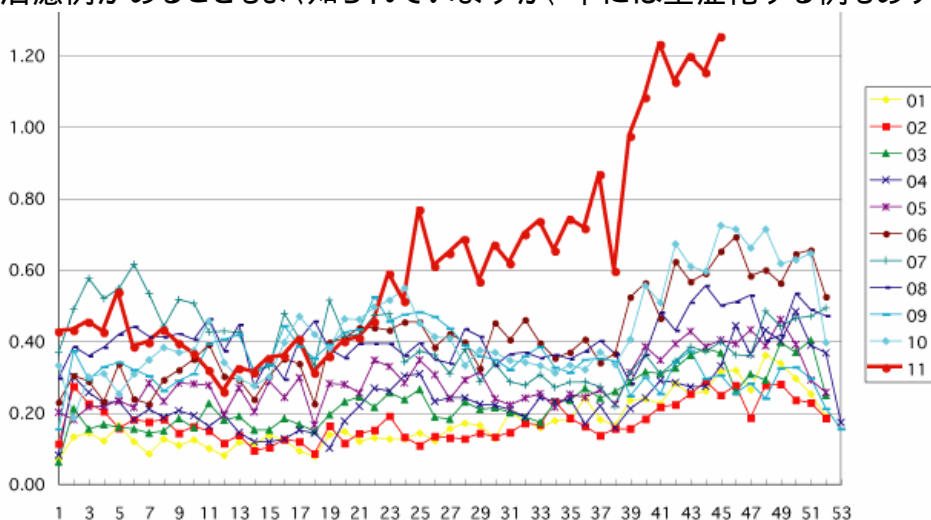
2011年 12月号

水島協同病院 院内感染防止対策委員会 ICT 発行
作成: 松岡

マイコプラズマ肺炎が多い!

定点(全国約500箇所の機関病院)あたりの報告数が、過去10年間で最も多い状態が続いています。

学童期の代表的な感染症で、流行は学童 家族内 さらに拡大します。
自然治癒例があることもよく知られていますが、中には重症化する例もあります。



当院データ	H22				H23				
	月	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~11
検査件数		233	208	143	164	149	124	162	171
迅速検査陽性件数		63	43	26	35	35	24	48	50

病原体

・肺炎マイコプラズマ(培養には特殊な培地が必要で、菌の発育に1週間以上かかるため、血液中の抗体を調べます)

感染経路

・飛沫感染、接触感染

潜伏期間

・2~3週間(長いんです)

初発症状

・発熱、全身倦怠感、頭痛
・咳(乾いた咳が解熱後も3~4週間持続)

治療

・マクロライド系抗菌薬
(エリスロマイシン、クラリスロマイシンなど)
マクロライド系抗菌薬耐性株の増加が問題となっている

マイコプラズマ感染症

特徴はがんこな咳、
ふつうの抗生物質が無効なので、
気がついた時には肺炎を起こしやすい。

